

# ✦ 悩める家族と当事者のためのメンタル情報紙 ✦



No. 100



# やしお

発行所：〒329-1104 宇都宮市下岡本町2145-13  
 栃木県精神保健福祉センター2F  
 栃木県精神保健福祉会（通称やしお会）  
 TEL 028 (673) 8404 FAX 028 (673) 8441  
 メールアドレス yashio@lime.ocn.ne.jp

## 栃木県精神保健福祉会機関紙「やしお」100号の発行記念に寄せて

栃木県知事 福田 富一



栃木県精神保健福祉会機関紙「やしお」100号の発行を心からお喜び申し上げます。

栃木県精神保健福祉会におかれましては、昭和38年に栃木県精神障害者援護会として発足され、以来、長年にわたり地域における家族会の育成をはじめ、精神障害者に対する理解促進や精神障害者の方々の社会参加の促進などに幅広く取り組まれてきました。貴会のこれまでの活動に対して改めて敬意を表します。

また、貴会が発行する機関紙「やしお」は、会員間の架け橋として、精神障害に関する知識の普及啓発に大きく寄与してきたところであり、編集及び発行に携われてきた関係各位の御尽力に深く感謝申し上げます。

さて、精神疾患は全ての人にとって身近な病気であり、精神障害の有無や程度にかかわらず、誰もが安心して自分らしく暮らすことができるような地域づくりが益々重要になっています。このため、県では、「とちぎ障害者プラン21」に基づき、障害及び障害者に対する理解の促進や差別解消の推進、相談支援体制や保健医療体制、障害福祉サービス等の充実、就労支援や文化・スポーツ・レクリエーション活動の推進に取り組んでいるところです。

また、現在、次年度から始まる栃木県保健医療計画（7期計画）及び栃木県障害福祉計画（第5期計画）を現在、策定中であり、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築など、地域精神保健医療福祉の一体的な取組を推進して参りますので、皆様方のより一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。

結びに、貴会の益々の御発展と皆様方の御健勝を祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

## 祝 辞

## 「やしお」100号記念発刊を祝して



栃木県精神保健福祉センター 所長 増茂 尚志

このたび、栃木県精神保健福祉会（やしお会）の広報啓発機関紙「やしお」が100号の発刊を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。

栃木県の家族会「やしお会」は、全国でも早い時期に結成され長い歴史があることは、私が栃木県精神保健福祉センターに着任するときに教えていただいたことでした。やしお会事務局が当センターの建物内に置かれていることから、皆様方の熱心な活動を身近に感じてきました。このことは私にとって幸運なことで、多くの事を学ばせていただいております。

これまで「やしお会」の皆さま方が熱心に取り組んできた、精神障害者に対する社会的偏見の解消や医療費助成の取り組み、社会復帰促進のための社会活動などの成果は、徐々に法改正や新たな施策に反映されてきました。

機関紙「やしお」では、このような法制度改正に関する情報、精神医学の診断・治療の進歩を理解するための研修事業内容が掲載されていますが、それが、常に最新のトピックスであることに敬服しています。

また、機関紙「やしお」は、活動報告や情報発信の手段であるとともに、個々のご家族の気持ちを素直に表現する場としても大切な役割を担ってきたのだと、ご家族の手記を読むたびに実感します。

今や、新たな精神保健福祉施策を考えるに際し、当事者の方に意見を求めるのは必須のプロセスとなり、臨床現場でも、治療方針決定に際して、ご本人の意思を十分に尊重し確認することは、これまで以上に重要なこととなりました。

したがって、ご本人を見守り、支えているご家族の意見も、これまで以上に尊重されるべきであることは言うまでもありません。このような要請に応えるためにも、機関紙「やしお」が果たしている、時宜を得た情報提供と啓発普及活動は大きな意味があり、今後の活動に大きな期待を寄せております。

当センターの円滑な精神保健福祉業務の遂行には、やしお会の皆さまのご理解と協力が不可欠です。今後も、これまで同様に、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりにあたり、栃木県精神保健福祉会（やしお会）の皆さま方のご健勝とご発展を祈念して、「やしお」100号発刊の祝辞とさせていただきます。



## 挨拶

## 現在のやしお会



興野会長

やしお会 会長 興野 憲史

「やしお」100号記念発行に伴い、昨今のやしお会の事を振り返ってみたいと思います。平成17年に自立支援法が公布、それと前後して保健所の機構改革があり、やしお会の生みの親ともいえる保健所が徐々にやしお会から手を引いていく。また、やしお会の中核的存在であり、保護者でもあった作業所もやしお会を離れる。曾て家族だけでなく行政、病院、作業所、ボランティア、その他多くの福祉関係の理解者を募って

結成したやしお会がとうとう家族だけになってしまう。

高齢化した各地区家族会が事務能力を失い 烏山地区、鹿沼地区、栃木地区、真岡地区、矢板地区、大田原地区等が次第に解散・休会に追い込まれていく。今まで頂いていた補助金も打ち切られてしまう。しかしながらやしお会にとって何よりも痛かったのは有能な人材が奪われてしまったことであろう。

全国では、ハートピアきつれ川が倒産、前後して、全家連も倒産、それを引き継いだ全精社協も倒産。全家連に代わってみんなねっと設立と、栃木だけでなく全国にも大風が吹き荒れた。

従来、関ブロ大会等大きな大会を実施する際は、殆ど保健所の力をお借りして実施してきたが、平成23年度の関ブロ大会からは、初めてやしお会独自の力で実施致しました。

悪評高かった自立支援法も次第に改正され、やがて総合支援法となる。障害者基本法も改正、虐待防止法、差別解消法成立、権利条約も批准、精神保健福祉法の改正、県では差別解消条例も作って下さり、次々に精神に関して追い風となる法案が成立する。

但し、就労の方にばかり眼が行っていて、最も必要な家族支援及び精神障害者の居場所についての考えが殆どないのが残念であります。

また、この時にあたり、公益法人制度改革があり、社団法人の資格を維持していくためには極めて困難なハードルが幾つかあり、経費もかかり続けるのでこの機会に任意団体に戻ることに致しました。もともと法人にした目的はハートピアに入って作業所の経営に携わることが目的だったのですから。25年11月1日より**栃木県精神保健福祉会**と名称変更して新やしお会を立ち上げました。ちなみに群馬も埼玉も東京も任意団体です。また、援護会の解散、新やしお会の立ち上げと並行して目の回る忙しさの中、50周年記念誌も作成いたしました。

やしお会は、新生やしお会になったからと言って何も特別なことをやるわけではありません。まず、

- ① 家族同士が互いに支え合う事、そして、② 病気や制度についての勉強をすること、それから、③ 遅れている福祉制度を他障害並みにして頂くよう運動を続けていく事の3点です。

そのためには単位家族会が元気がなくてはなりません。そして、相談事業を充実し、且つピアサポートも並行して頑張り、解散・休会している家族会の復活、及び行政・関係機関へのたゆまぬ運動を続けることこそが大切と思われまます。

以上の観点から今現在やしお会は、各地区訪問の実施、家族相談員の法制化運動、交通運賃割引制度の署名運動、関係事業者訪問、国会請願を実施し、そして今年は、他障害並みの医療費の助成をお願いする運動を始めたところでもあります。これからも皆の幸せのために頑張りますので、皆様の応援宜しくお願い致します。

## 機関紙 やしお 100 号に寄せて

顧問 小池 秀明

(栃木県精神障害者支援事業協会／社会福祉法人ブローニュの森)

機関紙やしお創刊100号、真におめでとうございませう。

やしお会の仲間として、また栃木県精神障害者支援事業協会としてお祝い申し上げつつ、僭越ながら現在のやしお会への想いを述べさせて頂きたいと思ひます。

やしお会は皆様ご存知の様に昭和38年に結成された大変に歴史のある会です。その設立からこれまでの歩みの詳細につきましては、平成25年に発行された「結成50周年記念誌」をご参照頂くとして、今日は設立趣意や当時の想いから見て、今日のやしお会はどう写るのかということを考えてみたいと思ひます。

設立趣意（決議文）の要点は

- ・精神障害者の家族に社会的な繋がりや支援が無いという状況認識の下
- ・精神障害者の家庭を結集すること
- ・精神衛生事業関係者（＝保健所等行政職員・病院及び医療関係者等）を加えつつ
- ・行政当局の精神衛生対策に協力し
- ・かつ要望を提出する

というものです。

この中で非常に特異な点は3番目の、家族に関わる支援者も入れて組織されたという点であろうと思ひます。この事のねらい・目的は何だったのでしょうか。

この発足当時を知る当会のもう一人の顧問である小竹玄作氏によれば、当時200名の家族会員がいましたが、家族だけでは力不足であるため、「家族が本当に実力をつけて一本立ちできるまで」関係者の力を結集して頂いた、とあります。

当時のやしお会（精神障害者援護会）の会員構成は

- ・第一種会員 … 家族
- ・第二種会員 … 保健所・病院、その他精神保健関係者
- ・第三種会員 … 職親など
- ・第四種会員 … その他本会の趣旨に賛同する者

となっており、小竹氏の回顧録によれば、このように広く関係者を巻き込み全県的に組織していくことをリードされたのは、当時の栃木県精神衛生協会の森玄俊先生（森病院）と秋山洋一先生（両毛病院）とのことです。

私は両毛病院職員でしたが、実際に、秋山洋一先生が「家族が病院や行政に対等にもものが言えるように育成するために組織した」と仰っているのを聞いたことがあります。

この大きな後ろ盾のおかげで県内12箇所全ての保健所が管内の精神障害者家族支援のために地区やしお会を組織し、事務局を担いました。その下で小規模作業所作りも行われていったのです。

時の有力者の本腰を入れたテコ入れによって、精神保健行政の中に位置付けられたやしお会は、官民一体となった事業として隆盛していきました。

やしお会では中央大会や地方大会といった大規模な集会を定例化し、宇都宮病院事件後に組織された県の「精神衛生対策検討委員会」の委員に小竹氏が任命される等、多くの力が終結し、結実していきました。平成 2 年には全国初の県議会議員による支援組織「栃木県議会精神障害者社会復帰促進議員懇話会（精社懇）」も結成され、今日に至っています。

しかし皆様ご存知の様に、平成 18 年の障害者自立支援法施行に伴う、各地区やしお会傘下の小規模作業所の法人格取得と独立、それ以前からの県保健所機構体制の変更がやしお会を大きく揺さぶり、変化させました。県行政がやしお会の運営から手を引いていったのです。平成 6 年にやしお会が社団法人化したこともその布石になっています。それまでの行政の中での存在でもあったやしお会ですが、法人格を持ったのだから、もう支援はできないという大儀です。そういう中で県やしお会への運営費補助も無くなってしまいました。

この段階でやしお会は大幅にパワーダウンしてしまいました。もともと各地区では行政が事務局を担っていましたが、会員の高齢化が進み新規入会も少なく衰退してきていたところに補助金の廃止です。民間での事務局の担い手の無かった地区のやしお会は解散してしまいました。やしお会は自分達だけで運営していく力もお金も無いことに直面しました。ここからが正念場でした。

平成 21 年頃から理事会では事態の打開に向けて真剣な議論が重ねられていきました。

その中からやしお会は、家族会としての原点を見つめなおした活動を、自分たちの力で少しずつ立ち上げていったのです。私はこの頃の理事会の苦労を忘れることはできません。

特に日光地区の福田理事が中心となって、家族による家族のための相談会を立ち上げ、県内各地区でのリーダーミーティングを重ねていったことが印象的です。それが結実し「ピアサポート やしお」の相談会や今日の県内各所での家族相談会に繋がっているのです。これらの活動は今日のやしお会においても最も重要な活動とされ、事業の大黒柱です。

現在のやしお会は行政と共にあった頃ほどの組織力や「全家連」と共にあった頃の政治力はないかもしれません。しかし今のやしお会には、まさに自主的な組織運営による家族同士の支えあい、そして家族の立場からの精神障害者福祉の向上を目指すという明確な目的意識があります。

このことを鑑みるときは、やしお会の設立に関わった方々の想いはかなり達成されているのではないかと、森先生・秋山先生のイメージにかなり近づいてきているのではないかとと思うのです。（両先生がもし今おられたら何と仰ることでしょうか）

願わくは県内行政の皆様や医師やソーシャルワーカーをはじめとする保健医療福祉の専門職の皆様が、更に家族支援とやしお会の意義を見出し、地域社会の資源として応援し、御活用頂きたいところです。

末尾になりましたが、やしお会が今後も末永く県内精神障害者家族の拠り所であり続け、その立場から多くの想いや意見を発信する事を期待申し上げ、私のお祝いといたします。



# 統合失調症の経過と家族の思い。

## ④ 受容期

本人の心が一変する突然の発症は親をも奈落に落とす。

世間体など気にせず本人の心を察し行動を理解して家族全員の安定を図りたい。

病気は本人の一部、親の価値観で批判し罵倒し人格まで踏みこむのはいけない。

\*いつも信じてくれる人がいる。

## ⑤ 休息期

急性症状は落ち着いても家に閉じこもりがちになる。

治そうとして性急に働き掛けずに安心できる優しさでゆっくり休養を取らせたい。

つかず離れず、時には弱みをみせながら触れ合いを楽しむのがいいかも知れない。

\*優しさには許しが必要である。

## ⑥ 共感期

暴力だけは妥協せず、その他の事は目をつぶる。

発症前や他人と比較しないで今出来ている事や今後の生き甲斐なども話し合いたい。

親も楽しみを持ち夫婦そろって何時も笑顔で活き活きとしていないといけない。

\*思いをもらって思いやる。

## ③ 急性期

了解不能の幻覚・妄想の中、病識もなく診察も拒否するが一刻も早く医療に繋がりたい。

工夫を凝らし粘り強くお願いし更に強引にでも繋がらないと後の全てに繋がらない。

病気から心構えを問われているのは親かも知れない。

\*焦らず騒がず無理をせず。

## ⑨ 寛解・慢性期

意欲低下の人や幻覚・妄想を残す人もいる。

爽やかではないかも知れないが一所懸命に生きている姿は親として誇りに思うし共に歩める喜びにも感謝したい。

人を信じてその場に応じて楽しめる日々を思い描いて。

\*私も OK・貴方も OK。

## ⑦ 回復期

本人の存在価値を認めながら服薬と再発に注意して暮らしの中で治していく。

リハビリの一貫に家庭での役割を担わせ賞賛と感謝の言葉を掛けて勇気付けたい。

ただし発症前に戻るのは理想でしかないかも知れない。

\*治るとは現実に踏み止まること。

## ② 傾聴期

体の病気と同じなのに心の病と聞くだけで嘆き悲しむ。

発症の原因探しで親同士が争う前に親自身の内なる偏見に耳を傾けたい。

わだかまりを捨てて本人の無言の訴えにも耳を澄ましていなくてはならない。

\*偏見は悩みも不安も倍にする。

## ① 前兆期

眠れない、周囲がよそよそしく感じられる等、初発の前に前ぶれの症状が現れる。

現実と考えが離れていっても実感がなく伝えられない。

人目を避けるなどの行動の変化に親が早く気付けば軽症で済むかも知れない。

\*何か変、思うだけで終わらせない。

## ⑧ 転換期

働きたいが働けない、でも親のスネをかじる力はある。

その自発的能力で周囲の人に助けを求め社会資源を活用し衣食住の安定を図りたい。

親は地域で暮らす生活の手立てを、親あるうちに教えて置かなくてはならない。

\*心配と書いて心を配ると読む。  
(記・さかもと)



## Tea Time・・・ちょっとひと休み

当事者のリアルな声をお聞きしました。  
インタビュアーは、「でれすけ」さんです。

### Q 今、楽しいこと、好きなことって、なんだっぺ？

特に何も無い タバコを吸う カラオケ 好きなアイドルを見る 音楽を聴く 読書 食べること  
ヨガ 登山を始めた フットサル 寝ること 農業 ウインドショッピング 料理 資格の勉強  
温泉

～みんな色々あるなあ、何も無い人もいるんだなあ。～

### Q それじゃ、悩み・不安・心配なんかも聞いてみんべ。

対人関係 仕事のこと 就労支援施設にいるが時給が安い 年金がずっと出るかどうか  
お医者さんとのやりとり(診察時間が短く、うまく話せない) 健康 一人になると死にたくなる  
被害妄想に悩む 将来のこと(仕事につけるかどうか、生活できるか) 親なき後をどう生活するか  
幻覚や幻聴 生活保護について などなど。

～心配や 悩み 不安は、沢山あんだべな。ゼーんぶを一度に解決できればいいんだけど、難しいべな。

こんな時には、仲間の力を借りることができればいいんだべな。すぐに解決できなくても一人じゃないと思えることは、オラも感じるけど、心強くなるべな。

医療の分野は限界があるんだと。偉い先生から聞いたことなんだけどこれからは、ピア(同じ立場の仲間)にかかっているかもしれねえな。能ある鷹は爪を隠さずにマニキュア塗って活躍して欲しいべ。みーんな、強み(ストレングス)のねえやつなんていねえど！！一人一人が尊重されるべき、大切な存在だど！大切に愛して可愛がってくれよ！自分のことをな！！～(でもほんとは、彼女がほしい でれすけである)

当事者編集委員として、毎回どんなつまらなそうな記事でも載せていただき、数年が経ちます。これは本当に有難いことで、能力にかかわらず、書きたい、お伝えしたいことをいつも尊重していただき、機関紙やしおの編集に関わらせていただいて、私にとっては生きがいのひとつになり、統合失調症の当事者として堂々と生活することができるようになりました。

たくさんの出会いがあり、そのご縁で当事者となかま(健常者の方など)のグループとして居場所作りをしたり、施設のアルバイト職員として雇用していただいたりと繋がっていったように思います。

実を言うとやり過ぎがたたったのが、自分でも気付かぬうちに久しぶりに体調を崩し、まわりの友人たちの助言でようやく勇気を持って仕事を休むことができました。よく知っているはずの親でさえ、私の変化に気付かなかったといいます。私自身、頑張るのは当たり前とっていたので、多少の疲れは無視しているところがあったように思います。

充電しながら、また携わることができたらいいな、と思うとともに、たくさんの方々に心配をおかけして申し訳なく思うのですが、その温かなお気持ちで胸一杯になります。みなさん、本当にありがとうございます。今、私は幸せです。

(記・かのう)



# 家族会だより

## 足利やしお会紹介



定例会

足利やしお会は昭和40年8月31日発足した歴史ある家族会です。以前、家族会事務局は、足利保健所(現：安足健康福祉センター)にありましたが、突然独立を余儀なくされ、平成19年(社福)プローニュの森「はろーじょぶ」内に移転しました。その後、平成22年7月家族会員の方のご好意により、足利市大町内に独立した事務所を構える事ができ、定例会を筆頭に活発な活動をしてまいりました。

そして現在は、平成29年3月に(社福)プローニュの森(旧まんぞく館1階)に事務所を移し、定例会・家族相談会等の活動をしています。

現在足利やしお会の会員数は家族会員(33名)、賛助会員(6名)計39名です。今年度は、役員改選に伴い、世代交代を進めていくべく長く活動にご尽力頂いた家族の方々から、新たに3名の方が理事、会長を務めていくことになりました。

各家族同士全く違う体験をされ、多くの感情や考えがある中で、足利やしお会が家族の方々には有意義かつ心が休める居場所、受け入れられる会として今後も活動していきたいと思っています。

### 定例会

**日時** 第3木曜日 13:30~15:30

**会場** 事務所等

**内容** 「共感」を大切にし、茶話会形式で実施。近況の報告や家族の対応の仕方など家族にしかわからない経験や気持ちなどを、お互い話し合いながら進めています。

その他(恒例行事)

**新年会・お花見・お楽しみ会等**

### 家族相談会

**日時** 第1・第3木曜日 10:00~12:00

**会場** 事務所

**内容** 家族相談員・サポーターを含め5名体制で実施しています。相談員は、相談者に寄り添い、「共感」を大切にし相談会に臨んでいます。

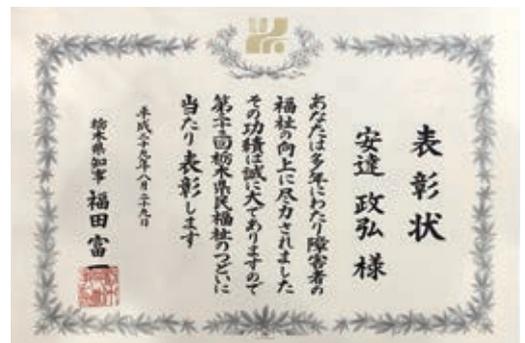
相談のご予約、お問い合わせは、  
**☎ 0284-64-9770** まで

(文：会長 菊地義明)



知事表彰受賞の安達前会長

去る8月29日(火)第23回栃木県民福祉のつどいが文化会館で開催され、やしお会からは安達政弘前会長が知事表彰を受けました。



### 編集後記

やしお 100 号発行に際し、栃木県知事 福田富一様、栃木県精神保健福祉センター 所長 増茂尚志様よりご祝辞をいただき、本当に有難うございます。

加えて、半世紀以上の風雪に耐えて来た先人の足跡に敬意を表し、これからも微力ながら家族会の発展のために努力します。